

# かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛  
笠岡市用之江377  
郵便番号714-0066  
(0865)

電話 66-1311  
FAX 66-1314



神昭分教会は峠山(たおやま)の南麓、福山市横尾町に存するが、地理的には隣接する千田町の一角と言え、古代以来の歴史の息づく土地柄である。この地の道は明治30年代には始まり、大教会史にも「千田の道は随分古い道」と誌されているが、名称を許されたのは昭和に入ってからとなった。

立教181年  
7月号



青年会伏せ込みひのきしん隊

おやすとで  
伏せ込みの汗  
青年会ひのきしん隊  
青年会

青年会(上原明勇委員長)は6月のおやすとふしん青年会ひのきしん隊に4人で入隊した。今年は新たに三日隊が設置され、15日から17日の間で14人が入隊した。おちばでの尊いひのきしんに汗を流し、熱い信仰談義に花を咲かせ、絆を深めた。また全世界一斉布教月間ということで17日には18人でのいがかげに出て、初参拝者3人のご守護をいただいた。たいへん勇み立つ、ありがたい実働となった。



半生を振り返る樋上氏

よふぼく勉強会開催  
テーマは「お道と社会」  
6月月次祭後  
育成部

育成掛(中島誠治主任)は6月21日、祭典終了後、午後1時30分から2時まで会議室でよふぼく勉強会を開催、25人が参加した。講師は樋上謙二氏(金浦分教会万能倉布教所長)。テーマは「お道と社会」。

樋上氏は高校1年生の時、祖母が山で倒れ、母親が介護していた時、お道の人に出会い母親と共に地元の天理教会に参拝したのが、このお道との繋が

りのきつかけになった。

高校卒業後、15年ほど郵便局で勤務する傍ら、仕事以外に労働組合の役員も勤め多忙を極めていた。昭和57年に結婚して2人の子供を授かってから、約12年間の単身赴任生活をし、長男が17歳の時、全身不随の交通事故に遭い、妻はそれから仕事と長男の介護生活の日々が始まった。自身はその頃、仕事に単身赴任から福山郵便局駐在となり、自宅通勤できるようになった。その矢先、妻が過労がもとで倒れ、妻の通院と長男の介護施設への送迎など忙しい毎日を過ごす中、叔母の出直しの一報が入った。その時、自身の人生を振り返り、後悔しないためにも仕事を辞める決断をした。その後、妻の介護と共に教会日参が始まる様になった。

妻の父親の5年祭を務め終えたその日、長男の入院先の病院から長男出直しという連絡が入った。17歳で事故に遭い26歳で亡くなった長男は、保育士になりたかったと妻から聞き、その思いに応えたいと、福山市の広報を見て子どもに関わるファミリーサポートというものがある事を知り登録。現在10人目の子どもをお預かりしている。子どもさんのお世話をしているうちに、

いつしか止まることのなかった涙も治まってきた。

その後は天理教の教区、支部関係の人から声がかかる様になり、役職を頂いてご用を務める様になった。仕事をしていた時とは違って、今はお金と縁のない方々との付き合いの中で、自分が如何に欲に塗れた人生を送ってきたのか気づいてからは、長年悩んできた腰痛がなくなっていたという。半年前、半年前から臭覚、味覚がなくなり通院しているが自身は現在62歳で、実の父親がこの歳に舌癌で出直した事を思えば、仮に治らないとしても結構かなと思える様になったと話しを締めくくられた。

「ひのきしん団参」  
実施  
青年会

青年会笠岡分会(上原明勇委員長)は、7月1日に「ひのきしん団参」を実施した。毎年恒例のこの行事には、教会・家族ぐるみでの参加者等35人が、詰所内でひのきしんを行った。

ひのきしんは、青年会層がベランダと網戸の洗浄、女性や少年会員は、毛



布の袷外しを行った。暑い中であつたが、皆勇んでひのきしんに励み、こどもおぢばがえりを迎える準備の一つを進めた。

家族ぐるみで詰所ひのきしん



皆部分教会



AFTER ← BEFORE

青年会笠岡分会(上原明勇委員長)は、6月28日に皆部分教会で有志ひの

**「有志ひのきしん隊」**  
**実施**  
**青年会**



海松ヶ岡分教会



AFTER ← BEFORE

きしん隊を実施し、6人が参加した。当日は教会敷地内の除草を行った。また、7月4日は、海松ヶ岡分教会で同じく有志ひのきしん隊を実施し、8人が参加。蒸し暑い中で、あつたが教会裏山斜面の除草に汗を流した。

# 修養科生の声



## 修養科生活を終えて

福山分教会 田中 旬

私は台湾のリョウさんの付き添いで修養科に來させて頂きました。リョウさんは私の祖父が大教会の老会長様(上原繁雄三代会長)から「台湾へにいがけに行きなさい。」と言われ北京語を一から勉強して四十歳頃から台北、台中、台南と人の多い公園に寝袋ひとつで布教生活を始め、台中で布教拠点となって下さったのが知り合ったリョウさん夫婦でした。通じ難い会話の中からおちばに何度も別席を運びに帰られるなど祖父の布教の活力になり手助けを頂いていた事も今に繋がっています。

修養科が始まり私は初日から一週間ほど台湾クラスの人におさづけを取り次がせて頂き、リョウさん自身も腰と膝に身があるにも関わらず毎日添い願いをして下さいました。いつもの様にリョウさんへのおさづけ取り次

ぎが終わってお札を言うときリョウさんは、「膝が痛くない。教祖がおさづけをしてください。」とビックリした表情でした。それまでは膝を付けて立ち上がる事が困難だったのに「膝が痛くない。」と言われた時は私も「何が起きたのかしら?」と頭が真っ白になりました。驚くばかりでした。腰も膝も一気に御守護頂いたことを知り、「教祖が近くと一緒に居て下さったんだ。」と思うと胸がいっぱいになりました。

添い願いをしている人がその場で御守護頂くという体験は初めてで神様は人の助かりを願う姿を受け取られているという事をリョウさんを通して教えて頂きました。でも慣れない修養科生活の中でリョウさんは時々腰に痛みが走り車で修養科まで送って頂く事もあつて息子さんからも「お母さんはそこに居ても幸せになれないから帰って来なさい。」と言われた事もありました。しかしリョウさんは、私に「神様

神様、大丈夫、私は必ず三カ月はおちばにいる。」と言われ、神様を信じ凭れる姿に感動しました。

修養科中、地元福山の友達の上を聞き毎日お願いごとめをさせて頂きました。驚くような御守護の連絡を次々

と聞かせて頂き、おちばという地の尊さを感じまた「今までは人の助かりを願う気持ち足りていなかったな」と気づかせても頂きました。

今回付き添いという大役を通して、人のために心や身体を使うことを意識して修養科生活をさせて頂きこれからの自分の歩みにとても大切な事を学ばせて頂きました。リョウさんと一緒に三カ月間通らせて頂いたのはお世話下さる先生方はじめ、同期の皆さんや周りの方々がたくさん心をかけて下さったおかげだと思います。リョウさんも私もこのメンバーだったから毎日笑顔で通らせて頂く事が出来ました。祖父のおじいちゃん孝行が出来た気がして嬉しかったです。本当に皆さんありがとうございました。

稲倉分教会 北川 真生

## 修養科生活を終えて

私は修養科へ行くまで、製菓の専門学校に三年間勤めていました。修養科は以前から勧められていましたが、祖父父母が元気なうちに喜んでもらいたいと思い、今回志願しました。勤めていた学校の上司も私が天理教を信仰して

いることを知っていたので、ありがたいことに三ヶ月の休職も快く承諾して下さいました。

何の目標も持たず入学した修養科でしたが、「修養科は来たたくても来られないところ、自分で来たのではなく、お引き寄せ頂いて来ている」と聞かせて頂き、今が自分にとって一番ちょうどいい時なのだと思うことが出来ました。修養科中、身上も見せて頂き、自分自身の心を見つめ直し、毎日どれほどの神様の御守護を頂いているのか感じる事ができ、そのありがたさも感じることが出来ました。自分の考えや力ですごうするのではなく、いつも神様に守って頂いていて、周りの方々が支えて下さっていることを忘れず、感謝して通る大切さを学びました。おちばでなければ聞くことが出来なかった一つ一つのお話に、たくさん感動しました。

三ヶ月目には学校の上司と学生四人が、初めておちばがえりをしてくれました。「おちばに伏せ込ませて頂いたお陰」と、祖父父母がまた喜んでくれました。

三ヶ月間恵まれた環境で、何不自由なく、いつも喜びいっぱい過ぎてた

のは、親々が今まで信仰を伝えてくれたお陰だと強く思います。今の気持ちを忘れず、人のために動ける用木になりたいと思います。

教養掛の先生方、詰所の先生方、大変お世話になりました。ありがとうございました。

## こころの詩

笠岡の教友が選ばれ掲載されています。たので転載いたします。(敬称略)

### ▼『天理時報』

▽7月1日付「時報歌壇」

・海松ヶ岡◎ 藤井光子さん

ぬくぬくと真綿のなかの空豆は

パツと開けばお多福の顔

・海松ヶ岡◎ 池田広子さん

にわか雨に急ぎ取り込む干し物に

天道虫のついてくるなり

▽9月1日付「時報俳壇」

・備中◎ 塩飽利子さん

暮れなずむ植田に映る暮らしの灯

### ▼『陽気』誌七月号「道柳」より転載。

#### ▽進秀詠

・東悠◎ 田林美智子さん

心満ち感謝一入靈祭

▼表紙写真 (神昭分教会提供)

## 六月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様には 親心一杯のご守護を以て常に私達が陽気ぐらしが出来るようにと 四季折々の喜びを味わえるようお働き下さっております 中でも今は暑い夏を乗り切れるように十分な潤いをご守護下さっております事は 誠に有難い極みでございます 私共は親神様に生かされている喜びを胸に朝夕にお礼を申し上げますと共に 日々はご恩報じを念じ助け心の真実を以て助け一条のご用の上に努め励ませて頂いております その中にも今日の吉日は この笠岡の六月の月次祭を執り行う日柄でございますので ただ今からおつとめ奉仕人一同 喜び感謝とたすけ心も一人に 明るく陽気に勇んで 坐りづとめとてをどりを勤めさせて頂きます 御前には足下の悪い中に関わりませず 今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が 相共にお歌を唱和し 日頃のご高恩に改めてお礼申し上げます 御覧下さいます 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて先日 お道の芯である真柱様のお身上にしろしをお見せ頂きましたことは大変な驚きでございましたが 大難は小難にお連れ通り下さいましたことは誠に有難く 御礼を申し上げます これは芯に肉を巻くべき私達へのお急ぎ込みと思案させて頂き今まで以上におぢばへと心を寄せ たすけ心の真実を伏せ込ませて頂くべく にいがけ・おたすけに邁進させて頂き頂く所存でございます 取り分け目の前に迫りました子供おぢばがえりに 一人でも多くの子供を連れ帰りおぢばを賑やかにしたいと思います 又大阪で大きな地震があり 数名の方がお亡くなりになりましたが これも大難を小難にお導き頂いたものだけに残念でしたかありません 今後親神様に残念を味わわさないようににいがけ・おたすけに励み たすけ一条の親心を世界中に弘めてゆく所存でございます

何卒親神様には 与えられたよふぼくとしての立場を自覚し 出来る精一杯の心でたすけ一条に邁進する皆の誠実をお受け取り下さいまして 万たすけの上に尚も自由のご守護を賜り 親神様の御守護教祖のお働きをより一層感じて おたすけに勇み立つ道の子の姿に感化され 欲を忘れて助け合う事の大切さに気付き 陽気ぐらしに向かう真実の道を歩む人が増殖して お望み下さる陽気づくめの世の状が一日も早く実現しますようお願いの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

立教百八十一年 六月月次祭 祭典役割表

役割	区分	祭主		扨者		講話
		大教会長様	中島誠治	吉岡誠一郎	中島誠治	
地方	坐り勤	佐藤道孝	今川昌彦	上原繁道	菅尾一美	上原浩
		山野弘実	田林久嗣	岡田誠	田中つかさ	
		浅野明教	岡田誠	渡邊隆夫	田中つかさ	
おととめ	前 半	大教会長様	中村剛	門脇元教	門脇加津	八月講話
		上原繁道	杉原博之	三島渉	武内正美	
		吉岡壽	三島渉	吉岡誠一郎	門脇加津	
てをどり	後 半	大教会長様	中村剛	門脇元教	門脇加津	布教推進講話
		上原繁道	杉原博之	三島渉	武内正美	
		吉岡壽	三島渉	吉岡誠一郎	門脇加津	
笛	前 半	佐藤真孝	上原繁次	横山逸郎	横山小智榮	指図方
		森本忠平	赤木素志	横山逸郎	横山小智榮	
		中村義太郎	山田敏教	佐藤真孝	横山小智榮	
拍子木	後 半	中村義太郎	山田敏教	佐藤真孝	横山小智榮	賛者
		谷内伸自	中島誠治	高木昭祥	高木昭祥	
		菅尾正治	内海史郎	山野弘実	山野弘実	
すりがね	前 半	菅尾正治	内海史郎	山野弘実	山野弘実	内海史郎
		中村道徳	岡崎真一	三代温生	三代温生	
		虫明好美	佐藤香苗	岡崎豊子	岡崎豊子	
琴	後 半	虫明好美	佐藤香苗	岡崎豊子	岡崎豊子	上原繁道
		今川佐智子	三島照美	中村初美	中村初美	
		今川佐智子	三島照美	中村初美	中村初美	
三味線	前 半	今川佐智子	三島照美	中村初美	中村初美	山田敏教
		今川佐智子	三島照美	中村初美	中村初美	
		今川佐智子	三島照美	中村初美	中村初美	
胡弓	後 半	今川佐智子	三島照美	中村初美	中村初美	山田敏教
		今川佐智子	三島照美	中村初美	中村初美	
		今川佐智子	三島照美	中村初美	中村初美	

大教会だより

◎第九二期修養科

自 立教181年4月1日  
至 立教181年6月27日

\*教 養 掛

一ヶ月目 山野弘実  
(大教会役員)

上下分教会長

福島大介

(福満分教会長)

豊田宏哉

(府中市分教会長)

掛谷宣和

(坪生分教会長)

武内清明

(大教会准役員)

下田誠輝

(神村分教会長)

\*修 了 者

三ヶ月目

菅岡修

上原修

三代己

渡邊裕也

田中旬

福山曾珠霞

福山曾珠霞

吸江政江

稲倉北川真生

◎教人資格講習会修了者

立教181年7月11日終講  
菅岡 上原 修

◎三日講習会修了

立教181年6月3日終講  
坪生 阿部 道子



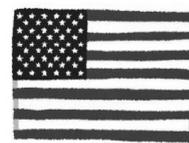
未曾有も未曾有、経験したことのない西日本を襲った30年7月豪雨は、近代社会において培った気象予報のノウハウをもってしても、被害を0にはできなかつた。ニュースで取り上げられた被災の状況はあまりにも規模が大きいく過ぎて、逆にリアリティーを失ってしまいそうで、私に何か出来る？出来るお助けがあるのか？と思案の毎日である。如何なる難もみな逃れるおととめで、被災された方々の一刻も早い救済を心よりお祈り申し上げます。  
(ほ)

# ENGLISH SEMINAR

## ～ 第75回英語講習会 ～



今年も海外から外国人講師の先生が来ます。



英会話を中心に役立つ英語を勉強しましょう。初めての人、大歓迎！  
英語が好きな人も、そうでない人も明るく楽しく英会話を勉強しましょう！  
東京オリンピックで、外国人選手との会話に役立つかもしれませんよ！



### [ 募 集 要 項 ]

- 期 間 : 8月7日(火) 午前8時30分 大教会受付  
午前9時00分 開講  
～8日(水) 午後3時ごろ大教会解散
- 受講対象 : 小学4年生以上、中学生、高校生、大学生、一般
- 受講御供 : 1500円(宿泊費、食費、受講費など、全て込み)
- 持参品 : 英和、和英辞典(あれば)、筆記具、着替え、洗面具等
- プログラム : 少人数による英会話学習、英語ゲーム、講話、  
バーベキュー、お楽しみ行事等

尚、詳細はスタッフの上原志郎 TEL 0865(66)1311

吉岡誠一郎 TEL 086(282)0550

もしくは、大教会までお尋ねください。

(御連絡下されば、当日、JR大門駅まで送迎いたします。)

◇ 主催 天理教笠岡大教会 海外部

714-0066 笠岡市用之江377 0865(66)1311

# 若人のつどい



**9月2日(日)**  
**笠岡大教会**

午前9時半 受付  
10時 開講  
午後2時半頃 閉講

## 内容

大教会長様講話・感話・グループタイム・昼食会等

## 対象

18歳～50歳位までの男女

## その他

参加費 500円、筆記具持参  
託児有り(申込書に記入)

※申込書に必要事項を記入の上、8月19日までに  
大教会神事所に提出下さい

・詳しくは大教会 上原明勇まで

**教会長子弟育成委員会**